



# かもめ便り

記事紹介

新年のご挨拶  
健康講演会  
遠足  
クリスマス会  
瀬戸地区人権文化祭  
Dr.'sエッセイ

1 面  
2 面  
2 面  
3 面  
3 面  
4 面

社会福祉法人 小渦会 鳴門シーガル病院  
理事長 並木 俊明

シーガル病院

検索

【ホームページ】 <https://k-seagull.jp/> 【所在地】 徳島県鳴門市瀬戸町堂浦字阿波井57番地 【TEL】 088-688-0011(代)



## 新年のご挨拶

新年、あけましておめでとうございます。

今年の干支は、丙午(ひのえうま)、丙は「陽の気が満ち、物事が勢いよく展開する」ことを示し、午は「前進と転換」を象徴することから、「情熱と行動力で突き進む」「燃え盛るようなエネルギーで道を切り開く」年だと言われています。

振り返りますと、昨年、国際的には、ウクライナやガザをはじめとした紛争、自国第一主義を振りかざす米国大統領の一貫性のない政策や、関税を手段とした様々な無理難題、日中関係の冷却化といった不安定要素が渦巻く中で、国内においては、光熱費、食材、医療材料、委託費など、あらゆるコストが上昇し、法人の運営に大きな影響をうけた年となりました。

厚生労働省の昨年11月発表の調査によると、24年度の精神科病院の利益率は、23年度の▲4.6%から▲6.3%とへ1.7%悪化し、66%の病院が赤字という結果が明らかになりました。

こうした中でも、当法人では、県内の医療機関で唯一実施している「リワークデイケア」をはじめ、障がい福祉分野においても、10月から新たに創設された「就労選択支援サービス」を制度開始日から実施するなど、利用者にとって真に必要な事業を積極的に提供してまいりました。

今年は、診療報酬改定の年にあたり、この便りが発行される頃には既に結果が出ていると思いますが、前回の改定では、鳴り物入りで発表した「賃上げ限定」の財源でさえ、他産業の賃上げ上昇率に及ばない額で、格差がさらに広がるという結果になりました。

福祉医療の就業者数は約890万人といわれており、これだけ多くの就業者に対し、利用者の窓口負担や保険料を抑えるためなどという理由で、引き続き公定価格である診療報酬を、他産業並みの給与水準となるよう改訂しなかったとすれば、賃上げを経営者に要請している政府の姿勢とは、大きく矛盾したものと云わざるをえません。

また大きな動きとして、新たな「地域医療構想」が、2040年頃を見据え、85歳以上人口の増大等に対応できるよう、入院医療だけでなく、外来・在宅医療、介護との連携等を含む「地域完結型」の医療・介護提供体制を構築するべく、現在検討が進められていますが、この度の構想から新たに精神医療も加わることになりました。

当法人においても、他の事業者との連携も含め、退院から地域移行・地域生活に至るまで、切れ目ない支援の在り方が改めて問われることとなります。

県内唯一の「医療」と「福祉」双方の専門性とノウハウを備えた社会福祉法人として、来年の創立100周年に向かって、職員の皆様とともに、これまで以上に利用者一人ひとりに寄り添った良心的な医療・福祉の提供に努め、更に社会に貢献できるよう、今年の干支を追い風に、情熱と行動力で道を切り開いていく決意でございますので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

理事長  
並木 俊明

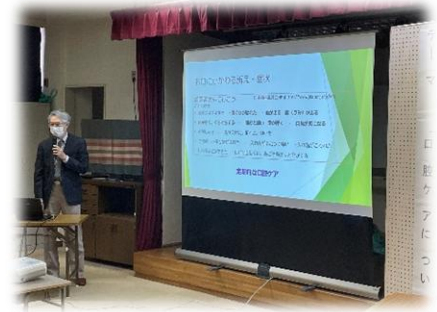


地域交流

健康講演会を開催しました

令和7年10月15日、瀬戸公民館にて健康講演会を開催しました。当日は、歯科医師の木戸淳一先生を講師にお迎えし、「口腔ケア」をテーマにご講演いただきました。講演では、歯を失う原因として最も多いのが歯周病であることや、歯周病予防には日々の歯磨きが重要であることが説明されました。歯垢は歯磨きで除去できますが、歯石は歯科医院での専門的な処置が必要であることなど、正しい口腔ケアの知識を分かりやすく学ぶことができました。また、歯周病と糖尿病には相互関係があり、免疫力の低下や血中の炎症物質の増加などを通じて、互いに病状を悪化させる

- 可能性があることについても紹介されました。さらに、「オーラルフレイル」についての説明もあり、硬いものが噛めない、むせやすい、食べこぼしが増える、歯が少ない、滑舌が悪くなる、口が乾きやすいなど、口のまわりの軽微な衰えが将来の健康に影響することが示されました。対策としては、歯科受診だけでなく、自宅でできるマッサージや舌の体操なども有効であるとお話がありました。健康を維持するためには、身体だけでなく口腔の健康も大切であることを、改めて考える有意義な講演会となりました。



健康相談会も同時開催されました！



イベント

イングランドの丘に行きました

令和7年12月17日、病棟の遠足としてイングランドの丘を訪れました。「ひつじのくに」では、羊たちの特徴や性格についての紹介があり、みんなでの羊が一番かわいいか盛り上がっていました。今回の遠足では、普段は参叻難しい患者さまも介護タクシーを利用することで外出が可能となり、久しぶりの遠足を楽しまれていました。帰路の道の駅での休憩時には、アイスクリームを味わいながら感動のあまり涙を流される場面もあり、外出の喜びを感じられるひとときとなりました。



## イベント

## クリスマス会を開催しました



令和7年12月11日、院内にてクリスマス会を開催しました。当日は多くの患者さまにご参加いただき、カラオケ大会を中心に、笑顔あふれるひとときとなりました。患者さまの中には、サンタクロースやドレスなど思い思いの仮装で参加される方もおられ、会場は華やかな雰囲気になりました。また、職員も一緒にダンスで参加し、患者さまと職員が一体となって楽しむ行事となりました。カラオケ大会では、昭和の名曲から令和の最新曲まで幅広い曲目が披露され、世代を超えて会場が大いに盛り上がりました。特に、院長によるスペシャルステージでは、シャ乱Qの「シングルベッド」が披露され、大きな拍手が送られました。審査は理事長、院長をはじめとする職員が務め、入賞された方には賞品が贈られました。参加された皆さまにとって、心に残る楽しい時間となりました。



## 地域交流

## 瀬戸地区人権文化祭に参加しました

令和7年11月27日から29日までの3日間、瀬戸地区人権文化祭が開催されました。本年度のテーマは「しあわせあふれる町づくり」で、地域全体で人権について考える貴重な機会となりました。当法人からは、鳴門シーガル病院および小鳴門荘が作品展示に参加し、来場者の皆さまにご覧いただきました。会場には、保育所や幼稚園、小・中学校の児童生徒による人権課題啓発を目的とした作品が数多く展示され、子どもたちの素直な思いや考えが伝わる内容となっていました。また、町民の皆さまによる作品展示もあり、標語や俳句、俳画、書道、彫刻、手芸、凶画、写真、陶芸など、多彩なジャンルの作品が会場を彩りました。世代を超えた多くの作品を通して、人権の大切さや「しあわせあふれる町づくり」について改めて考える、意義深い文化祭となりました。



